

日本図書館情報学会会報

No. 189

2022年6月

日本図書館情報学会事務局（編集：総務委員会）

〒252-0383 神奈川県相模原市南区文京 2-1-1

相模女子大学 金井喜一郎研究室

（事務局業務に関する問合せ先）

（株）ガリレオ 学会業務情報化センター内 日本図書館情報学会

E-mail : office@jslis.jp 学会ウェブページ : <http://www.jslis.jp/>

ゆうちょ銀行 口座番号=00160-5-0045759 口座名義=日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行019店 口座番号=当座0045759 口座名義=日本図書館情報学会

定例（通信）総会の実施にあたって

会長 岸田 和明

2022年度の定例(通信)総会を実施いたします。議案は四つで、いずれも、本学会の運営における重要議案ばかりです。慎重なご審議をどうぞよろしくお願い申し上げます。

第一号議案は2021年度事業報告・事業監査報告で、第二号議案はそれに対応する決算報告・会計監査報告です。2020年度から2021年度への繰越金が約930万円となり、以前に比べて増加したことはすでに昨年度の審議の際に見ていただきました。その要因の一つは、新型コロナウイルス感染拡大の影響で学会活動が一部制限されたことですが、2021年度も同様の傾向から、2022年度への繰越金は約950万円で、微増となりました。2021年度には、特別な事業として、『日本図書館学会年報』の遡及的電子化やコロナ禍対策（学会費の補助、トラベルサポート）、オンライン・チュートリアルセミナーを実施しましたが、予想よりも研究助成ができなかったことや学会誌67巻の3号と4号を合併せざるを得なかったため、このような支出となりました。繰越金の活用の検討については、昨年度と同様に、監事の先生方から指摘を受けています（事業監査および会計監査におけるご意見につきましては、第四号議案の後に掲載しております）。なお学会誌の合併号についてはさまざまな点からやはり望ましくなく、今回はやむを得なかったとはいえ、年4回の学会誌発行を維持すべきことを改めて痛感させられた次第です。

第三号議案と第四号議案は、2022年度の事業計画案とそれを実施するための予算案となります。第三号議案に関しては、基本的には、2021年度での事業計画から大きな変化はありませんが、2021年と同様に繰越金の活用をいくつか盛り込んでいます。事業として『日本図書館学会年報』掲載論文の遡及的電子化とコロナ禍対策は継続します。また、研究助成については、個人ではなくグループでの申請を臨時的に認め、より一層の研究促進を図ることといたしました（この会報の発行時点では申請はすでに締め切られています）。さらに、学会事務局に代々引き継がれている書類あるいは刊行物の量が膨大になったことから、2022年度にはその大幅な整理を計画しています。以上の結果として、繰越金が約200万円程度減少することを見込んでいます。

昨年度の定例(通信)総会の際には、「今後、収支構造を分析し、学会会計について検討していく必要がある」と書かせていただきましたが、依然としてコロナ禍は継続しています。2022年度も引き続き、こ

の検討を進めていく必要があります。その際には、「持続可能な」学会に向けて、学会事務局の負担軽減についてもさらに考慮していきます。これは監事の先生方からもご指摘いただいていることであり、2022年度にはJ-STAGE 搭載業務の委託などを実施する予定です。

以上、定例(通信)総会を実施するにあたり、会長として議案の骨子と背景を記しました。会員のみならずには、それぞれの議案をご精査いただきますよう、お願い申し上げます。また、本学会の運営に対して、忌憚のないご意見ならびにご助言をたまわれれば幸いに存じます。

2022年度定例（通信）総会

正会員各位

会長 岸田 和明

2022年度定例（通信）総会として、以下の議案の可否につきまして、電子投票にて投票をお願いいたします（事前に郵送投票の申込みをされた方は、別送する往復はがきでの郵送投票も可能です）。投票方法の詳細については、同封の案内をご覧ください。なお、総会は正会員によって構成されるため、学生会員、団体会員、賛助会員の皆様には、案内は同封しておりません。

投票期日：2022年6月30日(木)（郵送は当日消印有効、電子投票は23:59まで有効）

議 題： 第一号議案 2021年度事業報告・事業監査報告

第二号議案 2021年度決算報告・会計監査報告

第三号議案 2022年度事業計画案

第四号議案 2022年度予算案

第一号議案 2021年度事業報告・事業監査報告

1. 運営事業

(1) 定例（通信）総会の開催

投票締切日を2021年6月30日として定例(通信)総会を実施し、有権者数612に対し、投票総数229、有効投票数229であった。投票の結果、全議案は成立した。投票は電子投票及び郵送によった。

(2) 理事会・常任理事会の開催

会務執行のため、下記のように開催した。

1) 理事会

第1回 2021年5月16日（日） オンライン開催

第2回 2021年9月26日（日） オンライン開催

2) 常任理事会

第1回 2021年4月25日（日） オンライン開催

第2回 2021年7月11日（日） オンライン開催

第3回 2021年9月12日（日） オンライン開催

第4回 2021年11月21日（日） オンライン開催

第5回 2022年1月8日（土） 慶應義塾大学（東京都港区）

(3) 会員集会の開催

正会員・学生会員からの意見を聴く機会として、2021年10月17日（日）に熊本学園大学（熊本県熊本市）を会場として会員集会を開催した。

(4) 規程・内規等の改正・整備

「会員に関する内規」を改正した。また倫理規程案を作成し、会員集会およびメール配信により意見を募った。

(5) 委員会の開催

下記の委員会日程の他、各委員会ともにメールによる審議・協議を随時行った。

1) 学会賞選考委員会

第1回 2021年7月24日（土） オンライン開催

第2回 2021年7月26日（月） オンライン開催

第3回 2021年8月30日（月） オンライン開催

2) 編集委員会

第1回 2022年2月23日（水） オンライン開催

3) 研究委員会

第1回 2021年5月29日（土） オンライン開催

第2回 2021年12月5日（日） オンライン開催

4) 総務委員会

2021年度は、会合を開かず、メールによる協議・審議のみを行った。

5) 『図書館情報学事典』編集委員会

第1回 2021年6月18日（金） オンライン開催

第2回 2021年9月23日（木） オンライン開催

6) 図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループ

開催なし。

(6) 会報の発行

『日本図書館情報学会会報』No.184（2021年4月）、No.185（同年6月）、No.186（同年9月）、No.187（2022年2月）を発行した（印刷版郵送・PDF版メール配信）。

(7) 図書館情報学教育に資する事業の計画策定・遂行

大学図書館関連の臨時シンポジウムを開催したため、本計画におけるシンポジウムの開催を見送った。

(8) 学会広報の推進

学会サイトの管理・更新（会報・メールマガジンの掲載を含む）、メールマガジンの発行などを進めた。

(9) 事務局業務の一部委託

会員管理、会費管理、発送業務等、事務局業務の一部ならびに定例（通信）総会の電子投票システムを株式会社ガリレオへ委託した。

(10) 学会活動への貢献に対する感謝状の贈呈

本年度は対象者がいなかった。

(11) コロナ禍対策事業

全学生会員（61名）に対して会費（全額）を補助した。また、経済的に困窮している会員からの申請に基づき、6名の会員に対して、第69回研究大会（熊本学園大学）参加に関わる旅費の一部を補助した（トラベルサポート）。

2. 研究促進事業

(1) 第69回研究大会の開催

第69回日本図書館情報学会研究大会を2021年10月16日（土）、17日（日）に熊本学園大学（熊本県熊本市）にて開催した。並行してZoomによるオンライン参加も可能とした。研究発表は15件、ポスター発表5件で、オンサイト参加者62名、オンライン視聴希望者（Zoom情報送信者）156名であった。

(2) 研究大会におけるシンポジウム開催

第69回研究大会2日目午後、「図書館情報学教育における遠隔教育の可能性と課題」のテーマで一般公開によるシンポジウムを開催した。参加者は対面37名（オンライン67名、討議を除く）であった。

(3) 2021年度春季研究集会の開催

2021年度春季研究集会を2021年5月15日（土）に青山学院大学相模原キャンパス（神奈川県相模原市）にて開催した。並行してZoomによるオンライン視聴も可能とした。研究発表は13件で、フォームへの参加申込者は218名（オンサイト参加者49名、オンライン視聴者169名）、実際のオンサイト参加者は48名であった。

(4) 研究助成の募集・交付

- ・研究助成の募集を行い、審議の結果、以下の2件に対して研究助成を行った。
杉本清香（早稲田大学）「英語による専門科目の授業（EMI）の増加が大学図書館の役割に与える影響」
野口久美子（八洲学園大学）「学校司書の職務に対する認識の変化とその過程：学校司書を辞める選択をした人々の語りの質的分析を通して」
- ・過年度に研究助成を交付した者については、研究助成の要件を満たしているかどうかを調査し必要に応じて対応した。

(5) 研究発表、研究交流促進のための助成

例年実施している研究発表促進のための交通費一部補助は春季研究集会では希望者がいなかった。研究大会では「コロナ禍対策事業」（1.運営事業の（11）を参照）として実施した。

3. 刊行事業

(1) 『日本図書館情報学会誌』の発行

『日本図書館情報学会誌』第67巻第2号（2021年6月）、同第3/4号（同年9月）、第68巻第1号（2022年3月）を発行した。

(2) J-STAGEによる『日本図書館情報学会誌』の提供

『日本図書館情報学会誌』について、J-STAGEを通じて提供した。『日本図書館情報学会誌』（1999年～2019年）および『図書館学会年報』（1997年～1998年）のオープンアクセスでの提供を行なった。

(3) 『図書館学会年報』バックナンバーの公開

『図書館学会年報』（1986年～1996年）の電子化およびオープンアクセスでの提供を行った。

(4) 『図書館情報学事典』の編集

当初の予定項目数は、10部門、全287項目となった。5月の原稿締め切り後、編集委員会で部門ごとに入稿内容をチェックし、執筆者にコメントを返送した。最終稿は編集顧問にも内容確認を依頼した。未入稿の項目について、執筆者の変更を含め、対応を進めた。

(5) 出版事業の在り方の検討

研究委員会における出版事業の在り方の検討は、次年度に先送りすることとした。

4. 表彰事業

(1) 日本図書館情報学会賞・論文賞・奨励賞の選考・授与

表彰内規に基づき、日本図書館情報学会賞、論文賞、奨励賞の選考を行い、以下の者とその著作等に対して授与した。

1) 学会賞 Rei Miyata (宮田玲), *Controlled Document Authoring in a Machine Translation Age*, Routledge, 2020, 219p.

田辺智子『図書館評価の有効性：評価影響の理論を用いた実証研究』明石書店, 2021, 369p.

2) 論文賞 該当なし

3) 奨励賞 仲村拓真「五大都市市立図書館振興協議会」に見る昭和前期の五大都市市立図書館の特徴」『日本図書館情報学会誌』第66巻第3号, 2020.9, p.73-92.

(2) 優秀発表奨励賞の選考・授与

2021年度春季研究集会、第69回研究大会において自己申告による若手研究者の口頭発表を対象に、研究内容・発表技法という観点から優秀発表奨励賞の選考を実施した。審査の結果、以下の通りとした。

1) 2021年度春季研究集会

渡邊晃一朗（東京大学大学院）「句読点などの記号/操作の用法についてのスタイルガイドの分析」

2) 第69回研究大会

宮田玲（名古屋大学）「学校図書館による教材資料提供プロセスのモデル化と教員連携を促す打ち合わせシートの開発」

5. 連携・協力事業

(1) 他機関との連携・協力の推進

図書館情報学の研究推進に資するよう、関係機関・諸団体との連携・協力を進め、後援依頼への対応を行った。

(2) 関連の会議情報等の周知

図書館情報学関連の会議情報等を学会のメールマガジンに掲載した。

6. その他

(1) 臨時シンポジウムの開催

2022年3月5日（土）に臨時シンポジウム「日本における大学図書館のグランドデザイン」をオ

ンラインで開催した。参加者は160名であった。

(2) オンライン・チュートリアルセミナーの開催

2022年3月19日(土)にオンライン・チュートリアルセミナー「Googleフォームでのアンケートに対するPythonによる集計入門」を開催した。参加者は27名であった。

2021年度 事業監査報告

事業監査の結果、学会活動が適正に運営され、活動計画が適切に行われていることを報告いたします。

2022年5月7日 監事 田村俊作

2022年5月7日 監事 山本順一

第二号議案 2021年度決算報告・会計監査報告

1. 2021年度決算報告

(収入の部) クレジット件数、会費、全て2022/3/31現在

項目	予算(円)	実績(円)	達成率	前年度決算	備考
1 会費					
正会員	5,336,000	4,843,000	90.8%	5,110,500	8,000円×郵便振替434件+6,000円×郵便振替2件 +5,000円×郵便振替6件+3,000円×郵便振替1件 +8,000円×クレジット決済165件+6,000円×クレジット決済1件
学生会員	114,000	128,000	112.3%	136,000	2,000円×会費補助61件+2,000円×クレジット決済1件 (会費補助対象のため後日返金)+2,000円×郵便振替2件 (会費補助対象のため後日返金)
団体会員	630,000	630,000	100.0%	630,000	15,000円×郵便振替13件+15,000円×銀行振込29件
賛助会員	100,000	100,000	100.0%	150,000	50,000円×銀行振込1件+50,000円×郵便振替1件
入会金	-	14,000	-	16,000	1,000円×郵便振替7件+1,000円×クレジット決済7件
2 広告料	220,000	165,000	75.0%	190,000	30,000円×3件(うち1件は前年度分), 25,000円×3件
3 学会誌売上金	1,430,100	1,268,400	88.7%	1,430,100	67(1)~67(4)4巻セット(789,600円), 67(1)単体分 (159,600円), 66(1)単体分(2,100円), 67(2)単体分 (155,400円), 67(3/4)単体分(155,400円), 67(1)~67 (3/4)3巻セット(6,300円) ※67(3/4)合併に伴い後日一部返金(197,400円) 図書館情報学用語辞典第4版印税(6,447円), 図書館情報学用語辞典第5版印税(16,787円), わかるシリーズ第1巻印税(3,718円), わかるシリーズ第2巻印税(970円), わかるシリーズ第3巻印税(4,688円), わかるシリーズ第4巻印税(1,778円), わかるシリーズ第5巻印税(4,526円)
4 印税	121,600	38,914	32.0%	728,322	
5 春季研究集会収入	0	0	-	17,000	収入なし
6 雑収入	5,772	45,792	793.3%	64,635	利息(41円), 2020年度研究助成対象者からの助成金の一部返金(45,751円)

7	前年度繰越 金	9,354,040	9,354,040	-	5,961,409	
	合計	17,311,512	16,587,146	95.8%	14,433,966	

繰越金除く収入 合計 7,233,106 8,472,557

(支出の部) 2022/3/31 現在

項目	予算(円)	実績(円)	進捗率	前年度決算	備考
1 運営事業費					
理事会・常任理事会 開催費	391,220	179,240	45.8%	158,000	日当(152,000円), 交通費(27,240円)
会計監査実施費	38,760	37,420	96.5%	48,872	日当(6,000円), 交通費(31,420円)
委員会開催費					
研究委員会	73,080	34,000	46.5%	37,990	日当(34,000円)
編集委員会	157,560	48,388	30.7%	61,990	日当(18,000円), 査読謝礼(7,000円×2 件), 通信費(1,648円), 書評用図書3 冊(14,740円)
学会賞選考委員会	28,000	18,000	64.3%	18,000	日当(18,000円)
総務委員会	20,000	9,220	46.1%	16,920	サーバーレンタル代金(5,238円), ドメ イン維持費(3,982円)
図書館情報学教育に 資する事業ワーキン ググループ	100,000	0	0.0%	0	支出なし
(『図書館情報学用語 辞典』第5版編集委 員会)	-	-	-	25,975	(2021年度事業計画なし)
『図書館情報学事典』 編集委員会	34,000	56,000	164.7%	92,000	日当(56,000円)
会報発行費	737,000	649,731	88.2%	696,366	会報印刷費(No. 184: 72,600円+No. 185: 115,500円+No. 186: 48,400円 +No. 187: 58,300円), 同封資料印刷費 (No. 185: 22,000), 封筒制作費(No.

					184:15,180+No. 185:15,180+No. 186:15,180 円+No. 187:15,180 円), 発送業務委託費 (No. 184:18,287 円+No. 185:17,847 円+No. 186:14,141 円+No. 187:14,161 円), 通信費 (No. 184:47,218 円+No. 185:68,460 円+No. 186:46,002 円+No. 187:46,095 円)
事務局運営費	1,432,000	1,506,862	105.2%	1,416,176	事務局運営業務委託費 (1,005,777 円), 通信総会管理委託費 (66,000 円), 振込手数料 (43,631 円), 会費クレジット決済トランザクション手数料 (53,251 円), 文書印刷・封筒作成・発送業務委託費 (21,838 円), 消耗品費 (9,809 円), 通信費 (27,819 円), 雑費[学会誌購読料一部返金等] (216,557 円), アルバイト料 (17,600 円), 日当[会場校挨拶, 事務局] (14,000 円), 交通費 (30,580 円)
コロナ禍対策事業費	404,000	306,000	75.7%	150,000	学生会員補助 2,000 円×61 名, トラベルサポート費 6 名 (184,000 円)
2 研究促進事業費					
研究大会開催費	300,000	316,707	105.6%	36,628	ウェブ会議システム Zoom 利用料 (16,707 円), 研究大会開催校支援金 (200,000 円), 案内発送費 (100,000 円)
研究大会シンポジウム開催費	25,000	0	0.0%	0	使用せず (非会員パネリストの登壇がなかったため)
春季研究集会開催費	300,000	253,220	84.4%	18,871	アルバイト料 (137,500 円), 印刷費 (50,569 円), 消耗品費 (6,893 円), 賃借料 (41,800 円), 振込手数料 (440 円), ウェブ会議システム Zoom 利用料 (16,018 円)
研究助成費	1,200,000	270,000	22.5%	471,663	研究助成 2 件 (160,000 円, 110,000 円)

3 刊行事業費					※例年の研究発表促進のための交通費 一部補助は、研究大会においては「コロナ 禍対策事業」として実施した。 学会誌印刷費(1,222,020 円:67 巻 2 号 (60 頁)が 374,088 円, 67 巻 3/4 号(58 頁)が 361,618 円, 68 巻 1 号(78 頁)が 486,314 円), J-STAGE 搭載業務委託 費(72,600 円), 発送業務委託費 (112,398 円:視覚障害者向け PDF メー ル送信費用含む), 通信費(178,095 円)
学会誌発行費	2,016,161	1,585,113	78.6%	1,612,765	
『日本図書館学会年 報』 の遡及的電子化費	1,000,000	1,131,740	113.2%	-	図書館学会年報 32~42 巻電子化費 (316,640 円), 図書館学会年報 32~42 巻 J-STAGE ア ップロード費(815,100 円)
4 表彰事業費					
学会賞等副賞・賞状 作成費	416,500	505,896	121.5%	216,500	副賞(学会賞 2 件 400,000 円, 奨励賞 1 件 100,000 円), 賞状作成費(5,896 円) 選挙管理運営委員会日当(10,000 円), 臨時シンポジウム会場レンタル料(88,656 円), 臨時シンポジウム映像機器およびパ ソコンレンタル料(10,076 円), 臨時シンポ ジウムおよびオンライン・チュートリアルセミ ナー配信のためのウェブ会議システム Zoom 利用料(8,522 円), 臨時シンポジウ ム交通費(2,620 円)
5 予備費	8,638,231	119,874	1.4%	1,210	
翌年度への繰越金	-	9,559,735	-	9,354,040	参考:2019 年度繰越金 5,961,409 円
合計	17,311,512	16,587,146		14,433,966	

予備費・繰越金除く支出合計 8,673,281 7,027,411 5,079,926

※2021 年度予算書の一部に集計ミスがあったため本表ではその箇所(学会誌発行費, 予備費)を修正してある

2021 年度 会計監査報告

会計監査の結果, 予算に基づき, 会計が適正に執行され, 支払いが適正に処理され, 決算報告書が適正に作成されていることを報告します。

2022 年 5 月 7 日 監事 田村俊作

2022 年 5 月 7 日 監事 山本順一

1. 運営事業

(1) 定例（通信）総会の開催

投票締切日を2022年6月30日として定例（通信）総会を実施する。投票は電子（事前申請すれば郵送も可）による。

(2) 理事会・常任理事会の開催

下記の予定で、理事会・常任理事会を開催する。

1) 理事会

第1回 2022年5月21日（土）オンライン開催

第2回 2022年9月25日（日）オンライン開催

2) 常任理事会

第1回 2022年4月16日（土）慶應義塾大学（東京都港区）

第2回 2022年7月10日（日）オンライン開催

第3回 2022年9月11日（日）オンライン開催

第4回 2022年11月26日（土）オンライン開催

第5回 2023年1月28日（土）慶應義塾大学（東京都港区）

臨時 2023年3月予定 オンライン開催

(3) 会員集会の開催

正会員・学生会員からの意見を聴く機会として、2022年10月に東北学院大学土樋キャンパス（宮城県仙台市）を会場として会員集会を開催する。

(4) 規程・内規等の改正・整備

規程・内規等に関する整備を進める。特に「事務局規程」および「総務委員会内規」の見直しを行い、また「倫理規程」を発行する。

(5) 委員会の開催

下記の予定で、委員会・ワーキンググループを開催する。適宜メールによる審議・協議を行う。

1) 学会賞選考委員会 3回

2) 編集委員会 1回

3) 研究委員会 2回

4) 総務委員会 1回

5) 『図書館情報学事典』編集委員会 2回

6) 図書館情報学教育に資する事業ワーキンググループ 2回

(6) 会報の発行

『日本図書館情報学会会報』No.188（2022年4月）、No.189（同年6月）、No.190（同年10月）、No.191（2023年2月）を発行する（PDF版メール配信および希望する会員への郵送、ならびにSOLTIへの搭載）。

(7) 図書館情報学教育に資する事業の計画策定・遂行

関係団体と協力のもと、シンポジウムを開催する。

(8) 学会広報の推進

学会サイトの管理・更新（会報・メールマガジンの掲載を含む）、メールマガジンの発行などを進

める。

(9) 事務局業務の一部委託

会員管理，会費管理，発送業務等，事務局業務の一部を 2021 年度に引き続き，株式会社ガリレオに委託する。また定例（通信）総会の電子投票システムを株式会社ガリレオに委託する。これに加えて，J-STAGE への会員登録・修正（削除）業務を委託する。

(10) 学会活動への貢献に対する感謝状の贈呈

本学会の運営，事業，会員サービスの向上等に関して，その功績が顕著であると認められる個人会員に，感謝状を贈呈する。

(11) コロナ禍対策事業

学生会員およびコロナ禍により経済的に困窮している正会員に対して，会費の全額（または一部）を補助する。また，春季研究集会および秋の研究大会の参加費についても配慮するとともに，トラベルサポート等を検討する。

(12) 役員選挙の実施

2023-2025 年度の役員選出のための選挙を実施する。

(13) 事務局保管文書等の整理

現在，旧事務局（白百合女子大学今井研究室）に保管されている文書等について，内容を確認した上で選別し，原本保存，電子化，廃棄を実施する。また，必要に応じて原本保存資料の一部を外部倉庫へ移管する。

(14) 研究集会発表論文集の総目次作成

過年度の研究集会（春季研究集会および研究大会）の発表論文集の総目次を電子化（PDF 化）し，学会ホームページ上で公開する。

2. 研究促進事業

(1) 第 70 回研究大会の開催

第 70 回日本図書館情報学会研究大会を 2022 年 10 月 29 日（土），30 日（日）に東北学院大学土樋キャンパス（宮城県仙台市）にて開催する。

(2) 研究大会におけるシンポジウム開催

第 70 回研究大会 2 日目午後に，AI と学校図書館にかかわるテーマでシンポジウムを開催する（一般公開の可否は検討中）。

(3) 2022 年度春季研究集会の開催

2022 年度春季研究集会を 2022 年 6 月 4 日（土）に鶴見大学（神奈川県横浜市）にて開催する。

(4) 研究助成の募集・交付

図書館情報学振興のために，会員が個人ならびにグループとして計画した研究に対し，研究の遂行ならびにその結果のとりまとめに要する経費の一部を助成する。

(5) 研究発表，研究発表促進のための助成

春季研究集会または研究大会において第一発表者として研究発表（口頭，ポスター）を行う学生会員に対する交通費の一部補助については，本年度は，「コロナ禍対策事業」（1.運営事業の（11）を参照）の一部として実施する。

(6) オンライン・チュートリアルセミナーの実施

2021 年度に引き続き，本年度も実施する。

3. 刊行事業

(1) 『日本図書館情報学会誌』の発行

『日本図書館情報学会誌』第68巻第2号(2022年6月), 同第3号(同年9月), 同第4号(同年12月), 第69巻第1号(2023年3月)を発行する(事務局で印刷版郵送, 編集委員会で視覚障害会員向けPDF版をメール配信)。

(2) J-STAGEによる『日本図書館情報学会誌』の提供

『日本図書館情報学会誌』について, J-STAGEを通じて提供する。

(3) 『図書館情報学事典』の編集

校正, 索引作成など編集作業を進め, 2023年春の刊行を目指す。

(4) 『日本図書館学会年報』の遡及的電子化

『日本図書館学会年報』掲載論文(1985年以前)の遡及的な電子化を行う。

4. 表彰事業

(1) 日本図書館情報学会賞・論文賞・奨励賞の選考・授与

- ・正会員の優れた著作で2020年度もしくは2021年度に発表された単独著作を対象として学会賞を選考・授与する。
- ・『日本図書館情報学会誌』第67巻第2号から第68巻第1号までに掲載された論文を対象として論文賞を選考・授与する。
- ・個人会員(若手研究者)の優れた単独著作で『日本図書館情報学会誌』第67巻第2号から第68巻第1号までに掲載されたものを中心に奨励賞を選考・授与する。

(2) 優秀発表奨励賞の選考・授与

2022年度春季研究集会ならびに第70回研究大会において, 優れた口頭発表を行なった自己申告による個人会員(若手研究者)に優秀発表奨励賞を授与する。

5. 連携・協力事業

(1) 他機関との連携・協力の推進

図書館情報学の研究推進に資するよう, 関係機関・諸団体との連携・協力を進める。

(2) 関連の会議情報等の周知

図書館情報学関連の会議情報等を, 学会のメールマガジンに掲載する。

第四号議案 2022年度予算案

(収入の部)

項目	予算(円)	備考
1 会費		
正会員	5,176,000	現会員 594人×8,000円+1年未納分 37件×8,000円+2年未納分 8件×16,000円
学生会員	118,000	現会員 59人×2,000円
団体会員	615,000	現会員 41機関×15,000円
賛助会員	100,000	現会員 1機関・1個人×50,000円

2	広告料	190,000	30,000 円×3 件, 25,000 円×4 件	
3	学会誌売上金	1,419,600	定期購読 12,000 円×0.7×95 セット 個別購読 3,000 円×0.7×296 部	798,000 621,600
4	印税	212,023	わかる! 図書館情報学シリーズ第 1 巻 1,800 円×15 部 ×0.1 わかる! 図書館情報学シリーズ第 2 巻 1,800 円×3 部 ×0.1 わかる! 図書館情報学シリーズ第 3 巻 1,800 円×20 部 ×0.1 わかる! 図書館情報学シリーズ第 4 巻 1,800 円×5 部 ×0.1 わかる! 図書館情報学シリーズ第 5 巻 1,800 円×20 部 ×0.1 『図書館情報学用語辞典第 5 版』	2,700 540 3,600 900 3,600 200,683
5	春季研究集会収入	33,000	非会員参加費および発表論文集売上 3,000 円×11 名	33,000
6	雑収入	41	利息	41
7	前年度繰越金	9,559,735	*参考:2019 年度 5,961,409 円 2020 年度 9,354,040 円	
合計		17,423,399		
		7,863,664	前年度繰越金を除いた金額	

(支出の部)

項目	予算(円)	備考	
1 運営事業費			
理事会・常任理事会 開催費	248,880	交通費: 理事会 交通費: 常任理事会 26,440 円(4 人分)×2 回 会議費 宿泊費 日当: 理事会 2,000 円×24 人×2 回 日当: 常任理事会 2,000 円×7 人×5 回 + 15 名×1 回	0 52,880 0 0 96,000 100,000
会計監査実施費	35,040	交通費: 29,040 円(2 人分)×1 回 日当: 2,000 円×3 人×1 回	29,040 6,000
委員会開催費 研究委員会	77,500	交通費: 36,000 円(5 人分)×1 回 日当: 2,000 円×10 人×2 回 通信費	36,000 40,000 1,500
編集委員会	155,080	交通費: 75,080 円(5 人分)×1 回 日当: 2,000 円×10 人×1 回	75,080 20,000

		通信費	2,000
		宿泊費	0
		会議費	0
		消耗品費	30,000
学会賞選考委員会	47,200	非会員査読謝礼: 7,000 円×4 人	28,000
		交通費: 23,200 円(1 人分)×1 回	23,200
		日当: 8,000 円(4 人分)×3 回	24,000
		消耗品費	0
総務委員会	20,000	交通費	0
		日当: 2,000 円×5 人×1 回	10,000
		会議費	0
		サーバレンタル・ドメイン維持費	10,000
図書館情報学教育 に資する事業ワーキンググループ	60,000	非会員パネリスト謝礼: 10,000 円×2 名	20,000
		交通費: 20,000 円(非会員パネリスト 2 名分)×1 回	20,000
		日当: 2,000 円×5 人×2 回	20,000
『図書館情報学事 典』編集委員会	68,000	日当: 34,000 円(17 人分)×2 回	68,000
選挙管理運営委員 会	71,120	日当: (2,000 円×5 名)×4 回	40,000
		交通費	7,120
		会議費	10,000
		通信費	12,000
		消耗品費	2,000
会報発行費	10,000	印刷費	4,000
		発送手数料	0
		封筒作成費	0
		通信費	4,000
		消耗品費	2,000
事務局運営費	1,518,800	消耗品費	10,000
		通信費	84,000

		事務局アルバイト交通費	4,200
		事務局会計補助アルバイト代	17,600
		業務委託費：株式会社ガリレオ(12ヶ月分)	1,006,000
		業務委託費：株式会社ガリレオ通信総会システム使用料	66,000
		業務委託費：封筒・文書印刷料	46,000
		業務委託費：発送手数料	1,500
		業務委託費：会費徴収手数料	60,000
		業務委託費：J-STAGEへの会員登録・修正(削除)業務費	19,800
		業務委託費：1年以上会費未納者への督促・会誌発送ラベル作成費	54,200
		振込手数料	45,000
		感謝状作成費	6,500
		会場校会長挨拶交通費等(春季研究集会, 研究大会)	25,000
		会場校会長挨拶土産(春季研究集会, 研究大会)	6,000
		会場校会長挨拶日当：2,000円×2回(春季研究集会, 研究大会)	4,000
		過去事務局資料整理・学会誌遡及電子化に関わる日当	10,000
		過去事務局資料整理・学会誌遡及電子化に関わる交通費	3,000
		2021年度臨時シンポジウムの音声データ文字起こし費	15,000
		会合・研究集会等におけるZoom年間利用料	35,000
事務局保管文書等の整理費	70,650	過去事務局資料溶解処分費	17,050
		過去出版物等の一部廃棄処分費	6,600
		外部倉庫保管費	47,000
コロナ禍対策事業費	319,000	会費補助：正会員 8,000円×2名	16,000
		会費補助：学生会員:2,000円×59名	118,000
		トラベルサポート費：5名程度	185,000
2 研究促進事業費			
研究大会開催費	600,000	案内発送費	100,000
		事務局支援拠出金	200,000
		会場借料	300,000
研究大会シンポジウム開催費	110,000	日当(事前打ち合わせ分)：2,000円×6名(委員2名, コーディネータ1名, 登壇者3名)×2回	24,000
		交通費(非会員2名分)：21,000円+44,000円	65,000
		謝金(非会員2名分)：10,000円×2名	20,000

		通信費	1,000
春季研究集会開催費	300,000	消耗品費	30,000
		印刷費(発表論文集印刷)	140,000
		通信費	5,000
		会議費	5,000
		アルバイト料	120,000
研究助成費	2,400,000	研究助成金(個人): 300,000 円×2 件	600,000
		研究助成金(グループ): 900,000 円×2 件	1,800,000
		学生会員研究発表助成金	0
研究集会発表論文集の総目次作成費	30,000	発表論文集電子化(PDF 化)作業アルバイト代	30,000
3 刊行事業費			
学会誌発行費	2,023,275	印刷費: 第 68 巻第 2 号～第 69 巻第 1 号(360,000 円×4 号)	1,440,000
		発送手数料: 50,000 円×4 回	200,000
		郵送費: 60,000 円×4 回	240,000
		封筒作成費: 角 3 封筒 2,700 部, PP 封筒(B5)1,000 部	44,275
		J-STAGE 搭載費: 3,300 円×30 本	99,000
『日本図書館学会年報』の遡及的電子化費	1,650,000	16 巻～31 巻の電子化に関わる業務委託費	1,650,000
4 表彰事業費			
学会賞等賞金	406,000	賞金(学会賞:200,000 円, 論文賞・奨励賞:各 100,000 円)	400,000
賞状作成費		賞状制作費: 3 枚	6,000
5 予備費	7,202,854		
合計	17,423,399		

10,220,545 予備費を除いた金額

-2,356,881 繰越金・予備費を除いた収支差

事業および会計に関する意見

2022年度の監査において、田村監事と山本監事より事業および会計に関する意見が寄せられました。理事会で取り扱いを検討した結果、会報に掲載し会員への周知を図ることと致しました。

意見書

事業について

- ・コロナ禍が続く中で、春季研究集会や研究大会を始め、会の活動は滞りなく行われています。
- ・また、日本私立大学連盟の提言への対応等、図書館情報学を取り巻く環境の変化に積極的に対応しようとする姿勢は評価に値すると思います。

会計について

- ・繰越金が 900 万円を超え、決算額の過半を占める事態が続いています。短期で解消する必要はありませんが、学会の活動と予算規模が見合ったものになるよう検討する必要があると思います。
- ・現金、口座振込、クレジットカード（委託先が仲介）と、資金の移動方法が多様化しています。さらに、資金の移動の際には、帳票の記載事項を精査し、予算の費目に合わせて転記する必要があります。そのため、事務局の会計処理は非常に複雑で手間のかかるものになっています。事務局のご努力を多としますが、負担が過大であるとの印象を持ちます。会計処理を委託し、事務局は予算の適正な執行のモニターに注力する等、改善策を検討してはいかがでしょうか。

以上

2022年5月13日

監事 田村 俊作

2022年 監査報告書のひとつ

1. はじめに

本学会の監事は、この国の会計検査院、地方自治法に定める監査委員と同じく、独立して当該個人の学識と識見にもとづき権限を行使し、本学会の事務、会計処理について改善策の示唆、提案をするものとの理解されている（監事会などはありません）。2022年5月7日（土）の午後、相模女子大学10号館3階313号室において、項目別に整理されたクリアファイルホルダー2冊に整理された前年度（2021年度）の関係帳票等の現物一式を参照しつつ、金井 喜一郎事務局長の詳細な説明を得て、吟味をした。

会費徴収、会報の発送など、かさばるルーティンについては学会事務支援企業「ガリレオ」にアウトソースし、また有能な大学院生のアルバイトに助けられながら、事務局ひとり体制で誠実、正確に事務が執行されているとの総論的結論については、田村 俊作監事とともに、全体として「問題なし」と確認できたので、事務処理の便宜上、その旨を記した簡単な報告書を別途作成し、すでに5月7日に田村監事と連名で作成、提出済である。

本報告書は、独立の監事であるわたしが、田村監事とは別の視点から検討し、独自固有の権限をもと

に作成したものである。

・ ゆうパック事件

報告書本文に入る前に、今回の監査にあたり、わたしと金井事務局長が経験した事実をひとつ紹介し、今後の監査事務にあたっての注意事項を指摘しておきたい。事前に監事が眼を通すこととされている監査資料は、おおむねA4判100ページに及ぶ。2022年4月28日に金井事務局長は、相模原市で監査資料を封入したゆうパック2通を投函された。1通は4月30日に田村監事の手許に届いた。しかし、もう1通は5月2日になってもわたしの手許には届かず、その旨を金井事務局長に連絡し、宅急便であらためて送ってもらうようお願いした。金井事務局長がネットで追跡すれば4月30日午後「お届け先にお届け済み」になっていた。5月3日、金井事務局長が宅配便で再度送り、翌5月4日午前早くにわたしの手許に届いた。これを参照していたところ、5月5日の夕刻、くだんのゆうパックがわたしの住まいの郵便受けにはいった。

この経験から、またニュースでもしばしば伝えられるところであるが、郵便を使うことは信頼性が低いので、当学会の重要な事務コミュニケーションについては、宅配便を利用することが望ましいことが分かる。今後、今回事務局と監事との間で得た教訓は活かされるべきものと思う。

2. 業務監査

本学会の前年度（2021年度）の図書館情報学にかかわる研究・教育の振興・支援に関する諸事業、イベントは、コロナ・パンデミックの影響は受けつつも、同じ状況下にあった前々年度（2020年度）の事業実施と比較し、問題はなく、一定の成果をあげたと評価される。正会員5分の1以上の参加を定足数とする前年度（2021年度）の（通信）総会の投票結果からも、本学会の運営の方向性は基本的に支持されていると判断してよからう。

2021年度の2回の理事会（5/16, 9/26）はオンラインで開催され、5回開催された常任理事会は4回はオンラインで、年度最後の5回目は会務全体を精査するという趣旨から対面で行われた。常理事のひとりには事情により十分な活動が行えない状況にはあったが、会務の運営全体には、まず問題は見られない。

春と秋の研究発表については、オンサイトとオンラインのハイブリッド開催とされたが、全般に好評で、平時の研究発表と同様の効果をあげたと評価できよう。秋の熊本での開催は、学生の旅費支援を行ったが、これも独立生計がたてづらい学生会員に配慮した施策として評価できる。学会誌の刊行については、他の国内学会でも同様の現象に悩んでおり、欠号やむなしの事情は理解できるが、図書館情報学の研究推進を主要な任務としている本学会としては、できる限り、このような事態は避けるべきである。大学等に勤務する正規、非正規の若手研究者は待遇が悪化し、業務量が増加している。また大学院への進学者が減り、しかも日本人院生が少なく、大学院生たちの活発な研究成果の生産、公表は期待しがたい。本学会固有の状況ではないが、学会誌のあり方についても、少し考えることが望ましいのかもしれない。現状でも、次年度以降は改善されるとの説明は受けているが、ちょっと気がかりではある。

図書館情報学研究の社会的認知、底上げ、合理化のために、『図書館情報学用語辞典』、『図書館情報学事典』の刊行事業は大いに意義のあるものであり、直接的な編集作業とそれにかかわる関係者のコミュニケーション、合意形成に向けて、オンラインの会合が続けられているが、いささか手間取っているとの印象はぬぐいがたい。情報通信に関わる理論と現実は変化発展が急で、会員等から集められ

た原稿の内容が鮮度が高く、旬のうちに社会に出すことが望まれる。関係者には、早期刊行に向け、努力してほしい。

対社会的な発言、振る舞いとして、2020年には政府の学術会議の会員候補者の任命拒否事件があり、この2021年度には日本私立大学連盟の提言「ポストコロナ時代の大学のあり方」における図書館等の記述に関して、本学会として主体的に検討し、当該団体および社会に向けて主張を示したことは、高く評価できる。

前年度(2021年度)に改正した規程、内規のなかで、会費未納の会員への対応があるが、妥当なものと思われる。もっとも、規程等の明文の文言だけを云々するのではなく、その明文規定を支える事実や従来に関連する不文律や慣行とも一体で浮かび上がらせ、当該事務事業等に関し、本学会運営の将来の改善後の姿を浮かび上がらせることも意識されてよいと思う。

3. 会計監査

本学会の会計事務の処理、金銭の出入りについては、本学会の‘金庫’である、郵貯銀行と三井住友銀行の現金通帳、および通帳のない郵便振替口座については400枚を超える郵貯振込票・通知書による出入りの残高を根拠として、それぞれのキャッシュの動きで管理している。

委託先のガリレオはクレジットカードによる会費納入を扱っており、この会費の処理はキャッシュが到達したときに受入れと処理するため2か月のタイムラグが出る。このクレジットの事務処理の一部に不分明な箇所があり、今回の監査資料の作成は監査実施当日の前夜まで及んだそうである。アバウトな会計処理を潔しとしない金井事務局長のような生真面目な人物がこの衝にあたっていることは本学会にとってはハッピーであるが、当人にとっては教育研究に充てることができる時間が大幅に減少する。学会員は金井事務局長に対して、大いに感謝すべきであろう。

世の中はもう少し弾力的に会計事務が処理されているように思うが(一部発信主義の採用とか売掛金や未収金など)、本学会の会計事務処理が年度末の3月31日時点の上記の3つの‘金庫’の残高とそこに至る1年間のキャッシュの挙動を明らかにするという原理原則を採っているので、すごく大変である。予算、決算の項目に合わせて、1枚の領収書、伝票の中身を各個別の商品・サービス分解し、再構成する作業をとっている。現実の領収書や伝票の存在にあわせて処理をする仕組みがとれば、もう少し楽になるのであろうが、これまでの歴史的経緯もあってそれも難しいようである。委託先のガリレオのトランザクションもそのままは、本学会の会計処理に反映されていない。

・ 大学院生に対する研究助成で気がついたこと

ここで取り上げることは、わたしについては後知恵で、関係者の多くはすでに気が付き、「おかしいよな」という思いを持たれているはずである。大学院で若い内外の院生を指導されている先生方への情報提供、今後の研究指導の改善に役立てばと思う。

2021年度の決算書を見てほしい。大学院生の研究助成に関するところの備考欄に、45,751円が研究助成金の一部返金として特記されてことが確認できるであろう。会計事務処理ではこれで問題がないのであるが、大学院生の研究のあり方としては摩訶不思議である。研究というものは、当初思い描いた通りにゆくとは限らない。実証、論証しようとした仮説にめでたくストレートに到達するという平板な幸福にありつくことは、どちらかというと珍しい。たいていは矛盾するデータや事実と直面して、リサーチ計画全体を一定程度見直さざるを得ないものである。仮説通りの結果が出るとは限らず、思うような進行は果たせず、予想通りにゆかないのが研究であろう。そういう意味では、研究活

動は、ナマモノ、生鮮食品を相手にする料理に似ている。文献収集やインタビュー、調査旅行の内容は流動的で、試行錯誤のなかで進められるもので、申請し獲得できた研究助成の資金は弾力的に運用し、少しでも研究の深まり、質の向上を目指すためにフェアに使用してもらえばと思う。大学院生の研究活動の実施をバックアップする指導教員の円満な指導を切に願う。1円単位で研究活動の余剰が出ることに違和感を覚えた。

4. むすび

本学会の会勢を記せば、2022年3月末日現在、正会員593名、学生会員57名、団体会員41、賛助会員2（1団体・1個人）で、都合693の個人と団体によって本学会は構成されている。前年度末から17の減少で、2%程度の微減ということであるが、連年減少が続いている。このような学会の退潮傾向はこの学会だけではなく、この国の大半の学協会に共通している。わたしが大学院生の頃は、オーバードクターの問題はあったが、学会組織の年齢構成はもっとバランスが良かった。

2000年頃の大学院重点化によって学会が水膨れした時期もある。しかしいまや研究開発関連のキャリアパスは縮み、学会も高齢化が進行している。この学会なりに、近い将来のイメージを探るべき頃合いかと思う。近年履修証明で各大学が発給する‘学校司書’という制度的にワンランク低く、正規雇用がまず期待できない資格が法制化された。最近、この学校司書の人材育成を意識して、放送大学がインターネット開講の「学校図書館サービス論」という科目を新設したが、受講生に学校司書を目指すものはほとんどおらず、年配の女性が市民の教養として（学校）図書館を学ぼうとしている実態が明らかになった。大学や講習で行われている司書養成もじり貧である。正規職員としての司書採用も数少ない。このような実態を踏まえて、本学会も活動すべき時期が来ているように思う。オープンサイエンス化もオプションのひとつかと思う。

・ 事務局業務サポート人材について

学会事務については、これまで通り、ネットとソフトによる自動化の推進によるコストの削減とマンパワーの低減は不可欠である。会費の徴収については、取りはぐれのない会員口座からの自動引き落としもオプションの一つであるが、入退会も含め会員の自由の保障という観点からすれば義務化ではなく任意にとどめるべきもののように思う。会報のデジタル化はようやく実現の運びとなった。しかし、アメリカのように、コンピュータセンター、インフォメーションコモンを備える公共図書館が整備されていないこの国においては、情報通信環境に恵まれていない人たちにも本学会に関心を抱いてほしいという認識に立てば、ネット不自由者に対する配慮も必要であろう。そういう意味で、デジタル会報がままならぬ会員に対して事務局へのその旨の通知を促し、特段の配慮を確保するという行き方には共感を覚える。

最後にひとこと。勤勉、よく働く金井事務局長であるが、実働時間は多くはないが、事務能力に優れた慶応のドクターに在籍するKさんの存在は大きい。並みの学部学生のアパートでは、事務局長の再度のチェックが必要となり、足手まといとなりかねない。ちなみに彼女のペイは慶応の学内での大学院生アルバイトに準拠し、1,100円/時間とされ、最低賃金に近い（これは慶応だけではなく、大半の日本の大学は学部生、院生を労働力として使用するとき、提供される労働力商品の質を考慮することなく、最低賃金でこき使うという悪癖がある）。有能な大学院生が事務局サポート人材として活用できる場合には、提供される労働に比してペイが安すぎ、生産性に見合った賃金とはいえず、謝金にとどまるのはいかがなものか。事務局が優秀な大学院生のマンパワーに恵まれた場合、またそのよう

な人材が進んで事務局をヘルプしてくれる状況を生み出すためにも、奨学金的な意味合いもこめてもう少しペイをはずんでもよいように、わたしは思う。

以上、100 ページに近い監査資料を一覧し、5月7日に田村先生とともに監査を行い気が付いたところを記した。本学会の今後にいくらかでも役立てていただければ幸いである。

2022年5月15日

監事 山本 順一

コロナ禍対策事業について

2022年5月

日本図書館情報学会 理事会

新型コロナウイルス感染拡大および非常事態宣言発出等の状況に鑑み、経済的な影響が大きい非正規雇用の正会員および学生会員の経済負担を軽減するため、2021年度に引き続き2022年度も会費の補助（全額または一部）を行います。

・申請方法

1. 補助を希望する正会員は、メールで事務局窓口（secretariat@jslis.jp）に申し出ること。
記載事項：名前、メールアドレス、（分かれば）会員番号、申請理由（簡単に）
2. 学生会員は申請不要である。また、全額補助となるので、2022年度会費は振り込まないこと。（「学会誌」6月号に同封の振込用紙は廃棄すること）

・申請期限（正会員のみ）

2022年8月31日まで。

・手続き

審査後、メールで採否および補助額を通知する。

※【重要】通知があるまで、2021年度の会費を振り込まないようお願いします。

・その他

すでに2022年度会費を納入されている方へ

正会員で補助を希望する場合、事後、返金手続きをとります。

学生会員には返金手続きをとります（新入会員の入会金は納めていただきます）。

いずれも、後日、事務局から口座の確認連絡をさし上げます。

過年度未納のある方へ

正会員で補助を希望する場合、未納分の督促を中断いたします。

学生会員も同様です（ただし「督促の連絡」は未納の方全員に発信されます）。

第 70 回研究大会のご案内

研究委員会／第 70 回研究大会事務局

第 70 回日本図書館情報学会研究大会を下記のとおり開催いたします。なお、コロナ禍の状況に応じて、開催方式などを変更する場合は、別途にお知らせいたします。

開催要領

日 程： 2022 年 10 月 29 日（土）、30 日（日）
会 場： 東北学院大学 土樋キャンパス ホーイ記念館
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

事務局： 〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目 1-1
東北学院大学 教養学部 人間科学科 泉山靖人研究室内
日本図書館情報学会第 70 回研究大会事務局
Tel：022-773-3509
E-Mail:jslis70@ml.tohoku-gakuin.ac.jp （大会運営委員会事務局 ML）

参加費： 正会員・学生会員 無料，非会員 3,000 円（予定）

懇親会： コロナ禍にあるため、実施いたしません。

宿泊案内

研究大会事務局では宿舎の斡旋はいたしませんので、ご了承ください。
列車や宿泊場所の手配は、各人をお願いいたします。

プログラム（予定）

10 月 29 日 (土)		10 月 30 日 (日)	
12:30-13:00	受付	9:00-9:30	受付
13:00-13:15	開会式	9:30-11:30	口頭発表
13:30-17:00	口頭発表	11:30-13:00	ポスター発表，昼食
		13:05-14:05	会員集会，学会賞等授与式
		14:15-16:55	シンポジウム
		16:55-17:05	閉会式

- ・ 大会 2 日目の昼に「ポスター発表」を実施します。発表申込と当日の参加をお願いいたします。
- ・ 大会 2 日目の午後には「会員集会」を開催いたしますので、ぜひご参加ください。
- ・ 大会 2 日目のシンポジウムについては、「AI 時代の学びと読書 ―学校教育における図書館の役割を探る―」（仮題）をテーマとして開催予定です。シンポジウムは一般公開を予定しておりますが、シンポジウムのみ参加の方も事前申込が必要となります（参加申込フォームは後日、学会ウェブサイトで案内します）。

■ 発表募集要領

- (1) 応募条件：日本図書館情報学会の正会員および学生会員（共同発表の場合、第一発表者が正会員または学生会員であること）

研究発表の申込は、申込時点で既に正会員・学生会員である者に限ります。申込時点で入会が承認されていない場合は、研究発表の申込はできません。発表を希望する方で、未入会の方は、発表申込締切前に入会申込締切日となる7月20日（水）までに入会申込を行い、入会の承認通知が届いた後に、発表の申込をしてください。

- (2) 発表形態と発表時間

① 口頭発表：1件30分（発表時間20分、質疑応答10分）

② ポスター発表：1セッション90分。このうち、発表者は指定された30分間、ポスター付近に立ち発表内容を適宜説明する必要があります。

注意：第一発表者として口頭発表1回、ポスター発表1回申し込むことができます。ただし口頭発表1回、ポスター発表1回を同じ内容とすることはできません。発表形態は、申込時に発表申込申請フォームで「口頭発表希望」か「ポスター発表希望」にチェックを入れてください。口頭発表とポスター発表を各1回申し込む場合は、それぞれに申請してください。

- (3) 発表言語：日本語もしくは英語であること。どちらの言語の場合も、発表申込、発表論文作成、発表、発表概要提出まで同一言語とすることを条件とします。英語での発表も受け付けますが、多くの聴衆が日本語での発表を期待している現状に鑑み、基本的には日本語での発表が望ましいと考えます。

- (4) 申込方法：学会ウェブサイトから発表申込申請フォームにアクセスの上、申し込んでください。なお、受理された申込書はウェブサイトで公開する予定です。

- (5) 申込締切：2022年8月29日（月）24時必着

申込直後に申込を受け付けた旨のメールを送付します（受理の連絡は別途、メールにて通知します）。申し込んだにもかかわらずメールが届かない場合、トラブルの可能性があるので、研究委員会（kenkyu@jslis.jp）まで連絡してください。

- (6) 発表論文の提出：発表申込が受理された場合には、A4判で口頭発表は4枚、ポスター発表は2枚の発表論文を作成し、2022年9月29日（木）までに原稿を研究委員会ウェブサイトを送っていただきます。なお、発表論文提出の締切日は前後することがありますのでご了解ください。発表論文の作成方法などに関しては、発表申込受理者に連絡します。

- (7) 発表のための機材と資料等

① 頭発表：パソコンによるディスプレイ（PowerPoint）装置が使用できます。その他の機材をご要望の場合には、研究委員会（kenkyu@jslis.jp）まで問い合わせてください。当日の資料配布は、原則として認めていません。詳しくは、「研究大会・春季研究集会における発表のルールについて」をご確認ください。

② ポスター発表：ポスターのサイズはA0縦です。資料配布は自由です。ノートパソコン等によるデモンストレーションが可能です。電源は利用できません。パソコンを置くための台を希望する場合は、申込時に発表申込申請フォームの備考欄に「ポスター発表用PC台希望」と記入してください。

- (8) 優秀発表奨励賞

対象は第一発表者として口頭発表を行った若手研究者（目安として研究歴10年以内）とします。

授与のための審査を希望する者は、自己申告（発表申込申請フォームの「優秀発表奨励賞審査希望」にチェック）してください。発表内容、発表技法の観点から、優秀発表奨励賞選考委員会で審査を行った結果、優れた口頭発表を行い、将来の活躍が期待される若手研究者（正会員、学生会員）に授与します。受賞者は、学会ウェブサイト並びに学会誌に掲載される研究大会・春季研究集会概要において公表されます。

(9) 交通費等一部補助

以下の要領で発表を行うための費用補助を行います。希望される方は申請してください。

- ① 対象者：第一発表者として研究発表（口頭、ポスター）を行う学生会員 下記の※参照
- ② 人数：希望者全員
- ③ 申請基準

自宅または通学する大学の最寄駅のうち研究集会開催校の最寄駅に近い方を起点として、研究集会開催校の最寄駅まで片道 300km 以上であること。

④ 申請方法

学会発表申請システムの「研究集会参加のための交通費一部補助希望」欄にチェックを入れ、自宅または通学する学校の最寄駅のうち、研究集会開催校の最寄駅に近い方を申告する。

⑤ 補助額：下記の※参照

⑥ 支給時期と方法

研究集会で研究発表を確認後、1週間以内に事務局から振り込む。なお、支給した者に振込確認後、受領書の提出を求める。

⑦ 補助に際してのルール

- 1) 申請は単年度あたり 1 人 1 回に限る。
- 2) 研究発表を取りやめた場合は支給しない。
- 3) 本制度で賄えない残りの交通費等を補うために、併せて他機関から補助を受けることを認める。

※今回は、新型コロナウイルス拡大により経済的に困窮している会員に対して実施する「トラベルサポート」として実施いたします。第一発表者（登壇者およびポスター発表者）に対しては往復での交通費の全額を支給する予定です。

■ 研究大会・春季研究集会における発表のルールについて

研究大会および春季研究集会は次のようなルールの下に統一的に運用されています。発表希望者はルールをご確認のうえ、発表申込をしてください。

- (1) 個人会員（正会員・学生会員）は研究大会および春季研究集会において発表の権利をもつ。
- (2) 研究発表は他で公表していないオリジナルなものに限るものとする。
- (3) 個人会員が一度の研究大会あるいは春季研究集会において第一発表者（＝発表論文の第一著者）として口頭発表 1 回、ポスター発表 1 回申し込むことができる。
- (4) 共同研究の第一発表者は個人会員でなければならない。
- (5) 口頭発表の登壇者は、原則として発表論文の第一著者とする。
- (6) 発表論文の原稿は、発表内容を論文の形式で記述するものとする。
- (7) 発表者は発表申込申請フォームから発表論文をアップロードする際、本学会が教育・研究の目的で発表論文を印刷物およびウェブ等の電子メディアを使用することを許諾するものとする。

- (8) 指定の期日までに発表論文を提出しなかった者は、発表を取り下げたものとみなす。
- (9) 発表申請受理後のプログラム(発表タイトル, 発表者, 発表内容, 発表スケジュール)の変更は原則として認めない。
- (10) 発表当日の資料配布は、原則認めない。何らかの理由で資料配布を希望する場合は、発表当日の1週間前までに研究委員会宛に、資料に配布の理由を添えて申請し、承諾を得る。資料配布が認められた場合は、印刷・配布・残部回収は発表者自身で責任をもって行う。ただしポスター発表においては、資料配布は自由とする。

■ 発表者への諸注意

口頭発表者

- (1) 発表会場へは遅くとも、セッションの始まる10分前には到着するようにしてください。
- (2) 会場の備え付けの発表用PCに発表用ファイルをコピーしてください。また、セッションを円滑に進行するため、発表者は会場前方に着席してください。
- (3) 本学会発表では、原則として会場に備え付けのPCでの発表としています。持ち込みPCの利用が必要となる場合は、発表申込申請フォームの備考欄に「PCのつなぎかえの希望」について、必ず明記して下さい。事前申請を行わなかった場合、他の発表者の不利益になる可能性があるため、持ち込みPCのつなぎかえはできません。

ポスター発表者

- (1) ポスターは、セッションの始まる10分前までに掲示してください。指定した時間までにポスターを貼付できない場合は、発表を辞退したものと見なします。
- (2) 掲示するための用品は事務局が用意したものを使用してください。
- (3) セッション終了後、閉会式までに掲示を撤去してください。
- (4) セッション中、発表者は、指定された時間帯にポスターの前に立ち、参加者に研究内容の説明ならびに質問への回答を行ってください。

2022年度研究助成の決定

2022年度の研究助成について個人研究4件、グループ研究1件の応募があり、研究委員会にて審議いたしました。

審査は、例年の手順・方法を踏襲し、あらかじめ定めた評価基準に従って研究委員が採点した結果を総合して、助成対象を決定することにしました。評価は、申請者が特定されないよう、氏名等個人が特定される情報を伏せて、申請者名を知りうる立場にある研究委員を外して行いました。評価基準は科学研究費に準拠して、(1) 研究目的の明確さ、(2) 研究の独創性、(3) 遂行可能性、(4) 成果の公表可能性、(5) 申請金額の妥当性、(6) 研究組織の適切性、の6点を参考に、5段階で総合点をつけ、総合点の平均が3点以上を助成の最低基準としたうえで、審議の結果、下記の個人研究2件を助成対象としました。グループ研究については助成なしとなりました。

(研究委員会)

研究代表者：小竹諒（宮城学院女子大学）

研究題目：「改良型シーライ・コンテンツ・モデルを用いた私立高等学校図書館 Web サイトの評価」

助成額：300,000 円

研究代表者：土屋深優（筑波大学大学院）

研究題目：「ロンドンの公共図書館における社会的包摂への取り組み—運営主体と運営方針に着目して—」

助成額：300,000 円

「日本図書館情報学会 研究と発表における倫理規程」の制定について

常任理事会

このたび、日本図書館情報学会では「研究と発表における倫理規程」を制定しました。

本規程の制定にあたっては、2021 年度第 2 回理事会で素案を検討した上で、第 69 回研究大会（於熊本学園大学）の折に開催された 2021 年度会員総会で意見を募り、その後、学会ウェブサイト上でも会員から意見をお寄せいただきました。2022 年度第 1 回常任理事会で最終案をまとめ、第 1 回理事会で承認が得られたものです。

今後、個別の研究事案等に即して、規程の文言について改めて検討する必要も出てこようかと思えます。会員の皆さまから、積極的なご意見をお待ちしております。

日本図書館情報学会 研究と発表における倫理規程

制定：2022 年 5 月 21 日

日本図書館情報学会では、日本学術会議「科学者の行動規範—改訂版—」に則り、会員に対し、研究・発表において守るべき規範を以下のように示す。

（基本姿勢）

第 1 条 会員は、客観性・公正性を重んじ、偏見や差別のない態度を維持するとともに、研究のオリジナリティや社会的有用性を追求し、真理の探求を目指さなければならない。

（調査研究）

第 2 条 研究協力者に調査を行ったり実験への参加を求めたりする際は、研究過程全般や研究成果の公表方法について事前に十分な説明を行い、文書で同意を得るなど、適切な措置を講じるものとする。

2 自らが所属する組織や調査が行われる組織に倫理委員会などがあり、研究者自身がその申請対象に含まれている場合は、研究協力者に調査を行ったり実験への参加を求めたりする際に、当該委員会の規定に応じて、事前に具体的な調査計画を示し承認を受ける。

- 3 データベースを作成・利用する際は、適正な方法によりデータ提供者からデータを入手し、入手したデータは利用目的以外の用途には供しない。その公開にあたっては、データ提供者が同意した範囲を逸脱してはならない。
- 4 個人情報を集める際は、研究目的との関係で必要なものに限り、その保護・管理を厳重に行うものとする。研究過程で知り得た秘密は守らなければならない。
- 5 補助金・助成金を使って研究活動を行う際は、補助金・助成金の運用規程がある場合にはそれに従い、不正に使用してはならない。

(研究発表)

第3条 研究成果を文書または口頭で公表する際に、すでに発表されている理論やアイデアに言及する場合には、その出典を明示しなければならない。

2 データを改ざんしたり、捏造したりしてはならない。また、既発表のデータを初出データであるかのように発表してはならない。

3 すでに雑誌や図書に発表した論文と同じ内容の原稿を投稿してはならない。

4 研究協力者のプライバシーに最大限配慮し、不利益になるような情報を開示してはならない。個人情報は匿名化するなど工夫し、個人や組織に関する情報を示すことが必要な場合には、事前に研究協力者または児童等においては保護者の同意を得るものとする。

5 写真や既発表の図表などを論文に掲載する場合には、著作権や肖像権に十分配慮する。

6 著者は、研究の構想や、データの取得、分析、解釈に実質的に貢献し、論文の知的内容の執筆に責任を負う者とする。共同研究において連名で公表する際は、共同研究者間における当該研究への実質的な学術的寄与に基づき、著者の順序を決定する。

付則 本規程は、2022年5月21日から施行する。

役員会等の記録

2022年度第1回常任理事会（開催記録）

日時：2022年4月16日（土）13:00～15:30

場所：慶應義塾大学三田キャンパス

出席者：岸田，三浦，青柳，安形，浅石，今井（記録），金井

欠席者：小泉（敬称略）

1. 2022年度第1回理事会の議題整理
2. 2021年度事業報告および決算報告，2022年度事業計画(案)および予算案の検討
3. その他

2022年度第1回理事会（議事抄録）

日時：2022年5月21日（日）13:00～15:20

場所：Zoomによるオンライン会議

出席者：岸田，三浦，浅石，安形輝，青柳，今井（記録），金井，安形麻理，

池内淳，池内有為，池谷，岩崎，河西，河村，須賀，瀬戸口，常世田，福井，
松林，松本，宮田

欠席者：小泉，影浦

列席者：田村(監事)，山本(監事)

(敬称略)

会に先立って理事会の成立が確認された。

<報告事項>

1. 2022年度の会員・会費状況

事務局長から，資料に基づいて説明が行われた。

2. 常任理事会，理事会議事録確認

前回理事会開催後の議事録について確認が行われた。

<協議事項>

1. 2021年度事業報告

会長から資料に基づいて説明があり，審議を行った。論文誌の第3号と第4号の合併理由について確認が行われた。

2. 2021年度会計報告

事務局長から資料に基づいて説明があり，審議を行った。

3. 2021年度監査報告

監事より，事業報告について「学会活動が適切に運営され，活動計画が適切に行われている」という監査報告がなされた。また監事より会計報告に関して，証憑の整理，帳簿の記帳などの会計処理が適正に行われていた旨の監査報告がなされた。その後，監事による事業・会計に関する意見が報告された。監事より意見書の説明が行われ，事業報告，会計報告について問題がない旨が報告された。

4. 2022年度事業計画(案)

会長から資料に基づく説明があり，審議を行った。また事務局の過去資料の整理について事務局長より報告と提案が行われた。審議の結果，原案を承認した。

5. 2022年度予算案

事務局長より資料に基づく説明があり，審議を行った。審議の結果，原案を承認した。

6. 常任理事の退任について

会長より常任理事1名について，本人より一身上の都合により辞任の申し出があったこと，選挙管理運営委員長と対応を協議したことが報告された。その上で，本人の辞任を認め，補充人事は行わない旨の提案が行われた。審議の結果，異論なしとして，承認した。

7. 「日本図書館情報学会 研究と発表における倫理規程」(最終案)について

副会長より資料に基づく説明があり，審議を行った。審議の結果，原案を承認した。

<懇談事項>

学会の社会活動，理事会の組織構成などについて意見交換を行った。

役員の変更

常任理事の退任について

小泉公乃氏より、一身上の都合により常任理事を辞任したいとの申し出があり、2022年5月21日（日）に開催された2022年度第1回理事会にて退任が了承されました。なお、常任理事の補充は行いません。

(会長)

委員会・事務局より

『日本図書館情報学会誌』投稿募集

『日本図書館情報学会誌』の投稿先は以下のとおりです。投稿は随時、受け付けています。投稿に際しては「投稿規程」、「執筆要綱」、「『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール」をご参照ください。

(編集委員会)

- ・ 投稿先：日本図書館情報学会編集委員会 (journal@jslis.jp)
- ・ 『日本図書館情報学会誌』投稿規程 2021年4月1日改訂
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/01/tokokitei20210401.pdf>
- ・ 『日本図書館情報学会誌』執筆要綱 2016年10月8日改訂
http://jslis.jp/wp-content/uploads/2018/01/w_out_161008.pdf
- ・ 『日本図書館情報学会誌』掲載原稿および審査に関するルール 2021年4月1日改訂
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/01/rule20210401.pdf>
- ・ 日本図書館情報学会査読綱領 2021年4月1日改訂
<https://jslis.jp/wp-content/uploads/2021/03/sadoku20210401.pdf>

視覚障害者への学会誌 PDF 版の提供について

視覚障害者の会員の方に『日本図書館情報学会誌』のPDF版データを提供いたします。ご希望の方は、事務局 (office@jslis.jp) までメールでご連絡ください。お心当たりの方は、対象となる会員の方にお声かけいただければ幸いです。事務局より、障碍の程度をお伺いした上で、提供いたします。

(編集委員会)

J-STAGE 上での『図書館学会年報』の閲覧について

『日本図書館情報学会誌』第45巻以降に掲載された論文に加え、『図書館学会年報』の第32巻～第44巻に掲載された論文がオープンアクセスで利用可能になりました。研究等にご活用ください。また今後、さらに遡ってのオープンアクセス化を検討しています。

(編集委員会)

J-STAGE 上での『日本図書館情報学会誌』の閲覧方法について

発行後1年以内の『日本図書館情報学会誌』に掲載された論文をJ-STAGE上で閲覧するには、J-STAGEのウェブサイトにてサインインする必要があります。サインインあたっては、購読者番号とパ

スワードの入力が求められます。購読者番号は学会の会員番号（4桁の数字）で、パスワードは入会当初のパスワードになります。会員番号や入会当初のパスワードが不明の場合には、事務局（office@jslis.jp）までお問い合わせください。

（事務局）

メールマガジンについて

総務委員会ではメールマガジンを随時、発行しています。掲載・講読希望の方は、総務委員会まで電子メール（somu@jslis.jp）にてご連絡ください。なお、掲載を希望する方は、PDFの添付ではなくメール本文に掲載内容を記してお送りください。

（総務委員会）

2022年度の会費納入について

2022年度の会費払込用紙は6月号の学会誌に封入予定です。クレジットカードでの支払についても6月号の学会誌発送と同タイミングで可能となります。今しばらくお待ち下さい。

未納会費の納入について

2021年度の会費を未納の方はすみやかに納入してください。2020年度までの会費を未納の場合は、2021年度と合わせてできるだけ早く納入してください。なお、会費を3年滞納した会員（学生会員は2年）については、その年度末（3月31日）に会員資格停止の手続きを行います。次年度から会員としての権利を失いますのでご注意ください。また、会費を1年滞納（当該年度末を超えて滞納）した場合は、機関誌の配付を一時停止します。

そのほか、学生会員で2022年4月以降に所属が変わり正会員へ変更となる方については、判明後、すみやかに会員種別の変更手続きを行なってください。会費の金額が2,000円から8,000円に変わります。適正な会費をお支払いいただきますようお願いいたします。

【振り込み先】

ゆうちょ銀行 口座番号＝00160-5-0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

ゆうちょ銀行 019店 口座番号＝当座 0045759 口座名義＝日本図書館情報学会

なお会費は、下記のサイトへログイン後、クレジットカードによる支払い（もしくは決済）が可能です。

<https://service.gakkai.ne.jp/society-member/auth/settlement/JSLIS>

ログイン後、「オンライン決済へ進む」を押していただき、クレジットカード情報をご入力いただき、「オンライン決済の実行」をクリックすると決済が完了します。どうぞご活用下さい。

（事務局）

会員情報変更・退会および会員情報管理について

住所、電話番号、所属先、メールアドレス等の変更については、学会ウェブサイトに掲載されているガリレオの会員情報管理システム（SOLTI）から直接変更していただくか、「会員情報変更」のページに掲載されている「会員情報変更申請書」にご記入いただき、事務局（office@jslis.jp）までメールでお送りください。

また会員種別の変更については、(1) 正会員から学生会員への変更の場合、当該年度の4月20日ま

で事務局に申請する必要があります。それ以降に申請しても、その年度は変更されません。(2) 学生会員から正会員への変更の場合、随時、事務局で申請を受け付けます。ただし、受付の時期によっては、正会員の権利の行使が制限されることがありますので、ご注意ください。また、受付後に年会費の差額を申し受けます。

なお、退会については特に書式はありませんので、電子メールにて、退会理由を併記のうえ、事務局 (office@jslis.jp) までご連絡ください。毎年3月20日までにお申し出がない場合、翌年度末での退会となり、1年分の会費請求が発生しますのでご注意ください。

(事務局)

会報電子化と郵送対応について

会報 No. 187 でお知らせした通り、2022年4月の発行の会報より、印刷体の発行を取りやめ、電子メールおよび会員情報管理システム SOLTI での提供を行っております。ただし電子メールによる受領が難しい会員のために、希望者については電子体から印刷体をコピーで作成し、郵送する取り組みを実施しております。

郵送を希望される方は以下の宛先に郵送もしくは電子メールで「会員氏名」、「郵送先郵便番号および住所」以下の2点をご連絡ください。郵送については電子体の完成から1週間程度で到着するように手配いたします。申し出があった直近発行の号から、年度内発行の最後の会報までを郵送いたします。年度を超えて郵送希望をされる場合には再度申し出をお願いいたします。

会員の皆様には、会報が確実に受け取れるよう正確な電子メールアドレスの登録をお願い申し上げます。またご不明な点がございましたら、以下のメールアドレスもしくは宛先までご連絡ください。

〒182-8525 東京都調布市緑ヶ丘1-25
白百合女子大学今井福司研究室内 日本図書館情報学会総務委員会
somu@jslis.jp
(総務委員会)

学会受領資料

紙幅の都合により、図書のみ記載しております。(編著者名の五十音順)

- ・ 和気 尚美 著『越境を経験する:デンマーク公共図書館と移民サービス』松籟社, 2022
- ・ 未来の図書館 研究所 編『図書館とポスト真実』未来の図書館 研究所(発行), 樹村房(発売), 2022

会員の皆さまが図書館情報学関係の著作を刊行された際には、可能であれば事務局(相模女子大学金井研究室)まで1部お送りいただければ幸いです。書評対象文献の選定ならびに学会賞選考の際の参考とさせていただきます。

(事務局)